

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

基本情報

- ・ 氏名：石塚 政行 (ISHIZUKA Masayuki)
- ・ 所属：言語学専攻 修士2年
- ・ 派遣形態：個人派遣

研究課題名

バスク語レクンベリ方言の格体系

派遣先での活動

- ・ 国名：フランス
- ・ 都市名（研究機関）：バイヨンヌ (IKER)、レクンベリ（現地調査）
- ・ 派遣期間：2011年7月17日出発、同年9月16日帰国

主な研究成果

当初の計画

修士論文「バスク語レクンベリ方言の格体系」執筆のため、レクンベリでバスク語話者に協力してもらって、レクンベリ方言の格体系の調査を行う計画を立てた。レクンベリでの事前調査から、この方言の格体系がほかの方言と異なると予想していた。

達成された成果

論文のテーマを「バスク語レクンベリ方言の能格」に変更した。これは、調査の結果、この方言に見られる特殊な格体系は、能格標識の省略によるものと考えられることが判明したからである。

さまざまな動詞と名詞句について聞き取り調査を行った結果、以下の2つの場合をのぞいて能格標識が省略できることが分かった。

1. 動詞の意味や構文から能格標識を復元できない場合
2. 能格項が焦点や対比などの特別な情報的価値を持っている場合

今後の展望

レクンベリ方言の能格標識省略は日本語の格助詞の省略（無助詞）との類似点が見られ、この点に着目した対照研究を行って行きたい。また、能格標識を省略することに独自の機能があるのかどうか、会話テキストなどを収集することで確かめていこうと思っている。